

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立以来の「誠実・努力・奉仕」の校訓をもとに、地域に根差した教育を推進し、地域に信頼され、地域とともに成長する人格の育成をめざし、以下の点に重点をおく。

- 【全体】
- 1 規律ある生活態度と高い学習意欲により地域社会に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成をめざす。
  - 2 高い志や目標を持ち、意欲的に学習し、自律しモラルある生活をおくりつつ誇りを持って生き抜くことができる人材の育成をめざす。
  - 3 心身ともに健康、明朗でたくましく、他者を理解し「知・徳・体」のバランスのとれた人材の育成をめざす。
- 【体育科】
- 1 将来のトップアスリートはもちろん、スポーツの特性を理解し、生涯を通して積極的に行動できる人材の育成をめざす。
  - 2 ささまざまな体験を通して、積極的に企画・立案でき、行動力のあるリーダーの育成をめざす。
  - 3 スポーツを通して人間力を磨き、広い視野を持って人材育成を図ることができる人材の育成をめざす。

## 2 中期的目標

1 自信をもてる確かな学力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実

- (1) 各教科の計画的な授業研究により授業力を向上させる
- ア 各教科において授業改善にむけて授業研究活動を行う。学校内外の先進的な実践を研究し、公開授業や研究協議により研究成果を共有し、生徒の学力向上を図る。  
※授業アンケートの授業により「興味関心が高まった」(H26:75.0%、H27:75.3%)で平成30年度80%以上をめざす。
- イ 各授業に主体的、協同的な学習を積極的に導入し教科の授業研究活動の中心に据え、生徒の活用型、探求型学力の形成を図る。  
※自己診断の「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」(H27:69.3%)で平成30年度80%以上をめざす。
- ウ 習熟度別少人数展開授業(数学)の授業内容を検証し、他の教科でも実践の可能性を検討し指導方法の改善を図る。  
※授業アンケートの「知識技能が身についた」(H26:76.0%、H27:76.8%)で平成30年度80%以上をめざす。
- (2) 授業を補完する補習、講習により生徒個々に必要な学力を向上させる
- ア 夏季集中講座、冬季集中講座を参加しやすく拡大し、自ら進んで学習する態度を身につけさせるとともに進路に必要な学力を獲得させる。  
※実施時期、内容を検討し、平成30年度各40名参加を目標とする。(H27年度参加者:夏季16名、冬季20名)
- イ 教育産業による基礎学力調査を活用し、学力の推移を踏まえて、学習計画や学習指導に活用する。  
※結果別の補習を継続し、每学期成績下位層の人数を減少させる。
- ウ 自習室を整備し、朝学習、定期考査前学習会を継続させ基礎学力の習得を図る。  
※欠点保有者の数を毎年度5ポイント減らす。
- (3) 学年進行に応じた適時の進路指導を行い、夢を抱かせ、志を高く持たせ、生徒個々に合った進路実現を保障する。
- ア 学年と進路指導部が連携し総合的な学習の時間を活用するなど、自分の将来像を明確にイメージし生徒が自ら積極的に進路開拓できるような進路指導を展開する。  
※就職希望者は毎年内定率100%を続ける。自己診断の進路指導の活用度平成30年度80%をめざす。(H27:75.2%)
- イ 進学希望者にはセンター試験活用入試、一般入試までの受験を勧め、講習等の支援体制を整備する。  
※平成30年度までに4年生大学への進学希望者の60%以上が一般入試を受験するよう指導する。(H27年度200名の大学希望者のうち約80名が一般入試を受験)  
※平成30年度までに国公立合格者は10名以上、センター試験受験者100名、難関私大合格者の10%向上をめざす

2 計画性のある人権教育と統一感のある生徒指導

- (1) 人権尊重の精神を育み、他者を理解できるよう3年間の人権教育を計画的に実施する。
- ア 1年生で「同和問題」「男女平等」、2年生で「障がい者問題」「在日外国人・国際理解教育」、3年生で「さまざまな人権問題」を扱う。  
※自己診断:「人権意識が高まった。」(H27年度80.2%)で平成30年度90%をめざす。
- (2) 高校生活の基本である基本的生活習慣の確立のため生活指導を充実させる。
- ア 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成させる。  
※自己診断:「規律を守り、モラルを持って行動している」(H27年度94.3%)で平成30年度95%をめざす。  
※遅刻数はH26年度が約3500件、毎年15%減らし平成30年度には2000件以下をめざす。
- (3) 校内における教育相談体制を更に充実させ、生徒が相談したいときに相談できる体制を整備する。
- ア 教職員による生徒情報の共有を促進しスクールカウンセラー等を活用したケース会議を行うことで、さまざまな事象にすばやく対応できる組織力を向上させる。  
※自己診断:「学校は相談しやすい環境が整っている。」(H27年度54.5%)で平成30年度80%をめざす。

3 夢と志を持つ生徒を支援できる学校の魅力の向上

- (1) オーストラリア St ルークス高校との連携を学校全体の取り組みとなるよう工夫し国際理解教育を推進する。
- ア 相互交流の意義、目的に沿った活動により、学校全体で受け入れ、本校生徒全員の国際理解教育に資するものとする。  
※学校全体、全校生徒が交流活動を行えるよう生徒が提案する新たな交流機会を工夫する。
- (2) 生徒会活動を活性化させ学校行事や部活動の充実により達成感を持たせ、愛校心あふれる学校づくりを進める。
- ア 学年進行により行事を伝統化し、主体性と協調性をはぐくみ、生徒が主体となる学校行事の企画・運営により、自信をつけさせ、人間力を向上させる。  
※自己診断:「学校行事に積極的に取り組んでいる。」(H27年度83.2%)で平成30年度90%をめざす。
- イ 部活動の意義、目的を共通理解し、活動の成果を高めながら学習にも傾注させる。  
※部活動加入生徒の欠点保有者数を前年度比較で毎年減少させる。
- (3) 生徒会の活動により、地域清掃や地域貢献活動を活発に行い地域から愛される摂津高校とする。
- ア 「あいさつ運動」「地域清掃活動」「防災活動」などの奉仕活動により奉仕の精神を涵養する。  
※自己診断:「地域交流、地域清掃に参加できた」(H27年度49.2%)で平成30年度70%をめざす。
- (4) 広報活動を充実させ、地域からの信頼を得る。
- ア 本校生の活動をHPに掲載するとともに、ポスターなどを作成するなど、本校進学を志す中学生に向けての広報活動をより一層推進する。
- イ 各地域における学校説明会及び本校における学校説明会の見直しを図りながら、本校の取り組みを理解したうえで入学者選抜試験に挑む中学生の増加をめざす。  
※新入生に調査し、学校説明会に参加したことがあるという割合を平成30年度70%以上をめざす。

4 体育科の更なる充実に向けた取り組みの整理

- (1) 生徒が在籍する3年間での成果と効果を検証し、次の5年間に向けた方針を決め、カリキュラムに反映させる。
- ア 実態調査により、「つきたい力」が備わっているかを検証し、専門科目の指導内容と照合しカリキュラムをブラッシュアップする。  
※教科において独自の授業アンケートを工夫し、自信と誇りを持つ生徒の割合を学年進行で増加させる。
- (2) 地域との連携により生徒の渉外力等のマネジメント力を育むとともに体育科の魅力を広報する。
- ア 「スポーツ総合演習」での取り組みを地域に向けて発信し、パフォーマンス課題による課題解決力の獲得と地域への発信により達成感や自信を獲得できるようにする。  
※授業アンケート:「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」で平成30年度80%以上の肯定率をめざす。
- イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携などにより、生徒のマネジメント力と自己肯定感を高め、地域からの信頼を高める活動とする。  
※自己診断:3年生体育科「学校生活は充実している」で平成30年度90%以上の肯定率をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関しての要望は「十分である」と肯定的に捉えている生徒が昨年同様約8割であるが、自分たちにとっての「よい授業」「望ましい授業」の認識が十分であるかの検証についてわれわれの検証が必要であり、生徒にどのように説明するかも大きな課題である。</li> <li>・7割を超える生徒が学習に意欲的に取り組んでいるというのも昨年同様の結果であるが、本気で学習に取り組む姿はまだ少ない。学習状況、学力の状況の現状認識を持たせるために、教員からの啓発が不足であるならば、外部の講師等の活用も視野に入れて刺激を与える必要を強く感じる。</li> <li>・9割近い教員が日々の授業への工夫に取り組んでいると答えているが、個々の温度差を感じる。今年度は学力向上PTを立ち上げ、「よい授業とは何か」「生徒につきたい力はどのようなものか」をテーマに活動してきた。他校での先進的な事例の研究も含めて成果を共有する仕組みを整備が課題。</li> <li>・主体的、協働的な学習に向けた授業研究は教員の6割が取り組んでいると答えているが、PTの活動が教員をサポートできる組織的な取り組みになるようさらなる工夫が必要。</li> </ul>	<p>第1回学校協議会(5月27日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が学校経営に参画しやすい環境をつくっていただきたい。</li> <li>・研修会や先進の実践校への視察などソフト面での授業改善とICT機器の拡充などハード面の整備もお願いしたい。</li> <li>・SNS対策など今日的な課題へもしっかりと対応していただきたい。</li> <li>・大学受験を想定した目標が掲げられているが、しっかりとした基礎基本の指導をお願いしたい。</li> <li>・部活動の指導者について、サッカー部の指導スタッフをもっと増やせないか。</li> </ul> <p>第2回学校協議会(10月12日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境の整備に関して課題があるというが、寄付は受け入れ可能か。可能であれば卒業生などに依頼するなど工夫されたい。</li> <li>・授業アンケートの結果については、管理職が面談に活用するなど、積極的に資質の向上に役立ててほしい。</li> <li>・生徒指導についてさまざまな周知を全体の場で説明、指導するなど徹底していただきたい。</li> <li>・異文化理解教育や多様性への対応などこれからの社会を生きる力を指導していただきたい。</li> </ul>

<p>【生徒指導に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「モラルある行動をとっている」と答えた生徒は9割を超えており、生徒指導の方針についても7割近くの生徒が肯定していることから、生徒の安定した日常生活が見て取れる。一方、一部の生徒に基本的な生活習慣の確立や授業態度など改善が必要な項目もみられる。個別の指導をとおして改善していきたい。</li> <li>・人権意識について8割程度の生徒は肯定的に評価しているが、保護者にも人権教育に関する内容も共有できていない。3年間を見通した計画的な人権教育の計画が必要。</li> <li>・学校行事についての満足度は生徒の約7割近くが肯定的に評価している。反面学年進行により否定的に捉えている生徒の割合が増えていることに関して精査が必要。</li> <li>・教育相談体制の認知度は、他の項目の満足度と比べると生徒、教員において低くなっている。学年進行で高くなっているのは、進路に関する相談が増えていることからではないか。</li> <li>・教員の意見で3割以上が否定的である項目は、引き続き校内での議論が必要。</li> </ul> <p>【学校運営に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流活動に関して、学校内外の意見を整理して、まだまだ可能な取組みも潜在的にあるようなので、情報収集と意見集約が必要である。</li> <li>・防災に関する指導は、近年、各地で起こっている災害について学ぶ機会が必要である。</li> <li>・昨年度同様、管理職の学校運営に対して2/3の教員が否定的であることから、教育目標の達成が困難である。可能な限り現場の声を聴きながら方針に反映しているつもりではあるがまだまだ不足があるということだろう。</li> </ul>	<p>第3回学校協議会（2月1日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の課題について、整理したものを公開するなど、「見える化」の工夫が必要。</li> <li>・学校の魅力をどのような方法で創出していくかを明確に打ち出してほしい。</li> <li>・摂津高校への進学希望者数というのも学校力の一つの指標となるのではないか。</li> <li>・アドミッションポリシーは受験選抜のためだけではないだろう。どのような生徒を求め、三年間でどのような力をつけるのかを明確に示してほしい。</li> <li>・自己診断データにおいて生徒、保護者、教職員に差がある項目については生徒の希望と実態にかい離がないか検証してほしい。</li> <li>・広報活動は自校の積極的取り組みなど良い面をもっとあげていくべき。</li> <li>・在校している生徒が自信や誇りを感じることで、卒業生としても誇れる出身校となる。</li> <li>・授業改善の取り組みはさらに上をめざすようしっかり取組んでほしい。</li> <li>・教育産業による基礎学力検査の階層分布を分析し、「偏差値50」上回る方針、取り組みを設定してもよいのではないか。</li> <li>・人権教育に関して、2020TOKYOオリンピック、パラリンピックを目前にして、体育科設置校として障がい者スポーツへの理解を促すなどの取組みを工夫している。</li> <li>・生徒の主体的な活動を向上させるためには、生徒に委ねる部分を徐々に増やしていくことが有効にはたらくと思われる。</li> <li>・生徒の防災意識の低さを改善するため、通常の訓練に加えて、地域の消防署などに協力依頼をするなど、バリエーションを工夫してはどうか。</li> </ul>
---	--

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 自信をもてる確かな学力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実</p>	<p>(1) 各教科の計画的な授業研究に授業力の向上 ア 授業改善に向けた研究活動 イ 活用型、探求型学力の形成 ウ 習熟度別少人数展開授業の研究</p> <p>(2) 生徒個々に必要な学力を向上させる補習、講習 ア 集中講座による希望進路への学力獲得 イ 学力、学習状況の把握と向上策の検討 ウ 自主学習のための環境整備</p> <p>(3) 学年進行に応じた進路指導により生徒の進路実現を保障する ア 学年と進路部の連携による進路指導 イ 大学進学希望者への支援体制の強化</p>	<p>(1) ア 各教科において授業改善にむけて授業研究活動を行う。学校内外のICTの活用事例など先進的な実践を研究し、公開授業や研究協議により研究成果を共有し、生徒の学力向上を図る。 イ 各授業に主体的、協同的な学習を積極的に導入し教科の授業研究活動の中心に据え、生徒の活用型、探求型学力の形成を図る。 ウ 習熟度別少人数展開授業（数学）の授業内容を検証し、他の教科でも実践の可能性を検討し指導方法の改善を図る。</p> <p>(2) ア 夏季集中講座、冬季集中講座を開催時期、開催場所の検討も含め、参加しやすく拡大し、自ら進んで学習する態度を身につけさせるとともに進路に必要な学力を獲得させる。 イ 教育産業による基礎学力調査を活用し、学力の推移を踏まえて、学習計画や学習指導に活用する。 ウ 自習室を整備し、朝学習、定期考査前学習会を継続させ基礎学力の習得を図る。</p> <p>(3) ア 学年と進路指導部が連携し、総合的な学習の時間を活用するなど自分の将来像を明確にイメージし生徒が自ら積極的に進路開拓できるような進路指導を展開する。 イ 大学進学希望者にはセンター入試、一般入試までの受験を勧め、受験のための講習等の支援体制を整備する。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート「興味関心が高まった」80% (H27:76.5%) イ 自己診断「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」80% (H27:69.3%) ウ 授業アンケート「知識技能が身についた」80% (H27:76.8%)</p> <p>(2) ア 各講座ともに40名以上の参加者を目標とする(H27夏16、冬20) イ 下位層の人数を毎学期ごとに減少させる ウ 年度末での欠点保有者を毎年度5ポイント減らす(H27:79名)</p> <p>(3) ア 就職希望者は毎年内定率100%を続け自己診断の進路指導の活用度80%をめざす。(H27:75.2%) イ 4年生大学への進学希望者の60%以上が一般入試を受験(H27:一般入試約80名/200)</p>	<p>(1) ア 授業力向上PTの活動によりPTメンバーおよびその周辺の教員の意識の高まりが実践につながりつつあるが全体共有には至っていない。授業肯定感80.0% (○) イ 研修会でPTメンバーから取組みを促したが実践には至っていない。主体的、共同的授業58.3% (△) ウ 英語科において試行を実施できた。知識技能の習得の肯定感 全体81.5%、英語科78.8% (○)</p> <p>(2) ア 夏季講習の参加27名、冬季集中講座の参加18名 冬季は参加資格を厳しく設けたため少し減少した。(○) イ 下位層対象指名補習を実施したことで各学年ともに3年数学以外は減少傾向がみられる。(○) ウ 成績不振者(66名)へのはたらきかけを丁寧におこない、諦めさせない指導を継続させた。(◎)</p> <p>(3) ア 進路指導部と学年の連携によりきめ細やかな指導ができた。就職希望者一次内定率100%、進路指導の肯定率77.9% (○) イ 担任団と教科担当者の働きかけにより一般入試まで粘る生徒が増えた。センター78名、一般入試144名 (○)</p>
<p>2 計画性のある人権教育と統一感のある生徒指導</p>	<p>(1) 人権尊重と他者理解のための人権教育 ア 計画的な指導に向けた人権課題の整理 (2) 基本的な生活習慣の確立 ア 生活指導によるモラルと規範意識の醸成 (3) 相談体制の充実 ア 生徒情報の共有促進とケース会議による組織力の向上</p>	<p>(1) ア 1年生で「同和問題」「男女平等」、2年生で「障がい者問題」「在日外国人・国際理解教育」、3年生で「さまざまな人権問題」を扱うことにより計画的に人権課題に主体的に取り組ませる。</p> <p>(2) ア 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成させ、落ち着いた学校生活を過ごし、一人ひとりが安心、安全な学校の構成員であることを自覚させる。</p> <p>(3) ア 連絡会を毎週開催し、教職員による生徒情報の共有を促進しSC等を活用したケース会議を行うことで、さまざまな事象にすばやく対応できる組織力を向上させる。</p>	<p>(1) ア 自己診断:「人権意識が高まった。」90% (H27年度80.2%)</p> <p>(2) ア・自己診断:「規律を守り、モラルを持って行動している」95% (H27年度94.3%) ・遅刻数2500以下 (H27年度遅刻者数2427件)</p> <p>(3) ア 自己診断:「学校は相談しやすい環境が整っている。」80% (H27年度54.5%)</p>	<p>(1) ア 学年ごとに計画的に実施できたが、3年間を見通しに基づいた計画ができなかった。肯定率77.7% (△)</p> <p>(2) ア 各定期考査ごとの全校集会での講話とそれを受けた担任の指導により、安定した生徒指導ができた。生徒指導の肯定率94.5% 遅刻者数集計(2020件) (◎)</p> <p>(3) ア 相談体制は生徒に周知されているものの、学校への不信感が根強い生徒、保護者も一定数あり、より徹底した情報共有と丁寧な対応が必要とされている。生徒相談の肯定率67.4% (△)</p>

<p>3 夢と志を持つ生徒を支援できる学校の魅力の向上</p>	<p>(1) 学校間連携による国際理解教育の推進 ア 新たな交流機会の創出 (2) 学校行事と部活動の機能の向上 ア 自信をつけさせ、人間力を向上させる学校行事の伝統化 イ 部活動の成果の向上と学習への傾注 (3) 生徒会活動による地域貢献 ア 奉仕の精神を涵養する生徒会活動 (4) 広報活動の充実と地域からの信頼獲得 ア 生徒の活躍の広報と地域への情報発信 イ 学校説明会の充実と入学(受験)希望者への情報提供</p>	<p>(1) ア オーストラリア St ルークス高校との連携を学校全体の取り組みとなるよう新たな交流の機会を工夫し国際理解教育を推進する。 (2) ア 学年進行により行事を伝統化し、主体性と協調性をはぐくみ、生徒が主体となる学校行事の企画・運営により、自信をつけさせ、人間力を向上させる。 イ 部活動の意義、目的を共通理解し、活動の成果を高めながら学習にも傾注させる。 (3) ア 「あいさつ運動」「地域清掃活動」「防災活動」などの奉仕活動により奉仕の精神を涵養するとともに地域に信頼される摂津高生をめざす。 (4) 広報活動を充実させ、地域からの信頼を得る。 ア 本校生の活動をHPに掲載するとともに、広報用ポスターなどを作成するなど、本校進学を志す中学生に向けての広報活動をより一層推進する。 イ 各地域における学校説明会及び本校における学校説明会の見直しを図り、本校の取り組みを理解したうえで入学者選抜試験に挑む中学生の増加をめざす</p>	<p>(1) ア 生徒が提案する新たな交流機会を工夫する (2) ア 自己診断:「学校行事に積極的に取り組んでいる。」90%(H27年度83.2%) イ 自己診断:「学校行事に積極的に取り組んでいる。」90%(H27年度83.2%) (3) ア 自己診断:「地域交流、地域清掃に参加できた」70%(H27年度49.2%) (4) ア 新入生に調査「学校説明会に参加」70%以上</p>	<p>(1) ア 参加者の満足度は高い。新たな交流機会の提案はなかったが、来年度に向けた準備講座がスタートした。(○) (2) ア イ 生徒の主体的活動をどのように確保するか議論が必要。学校行事の満足度83.5%(△) イ 部活動ごとにその意義、目的が多様であり、一本化は困難。今後は広報により保護者等に周知が必要。(△) (3) ア 地域清掃等の奉仕活動は生徒会執行部、部活動所属生徒を中心に実施。一般化が課題。参加率45.8%(△) (4) ア ポスター制作、HPの更新は部活動も含めて積極的に行われた。保護者へのメールマガジンも798名が登録、月間2~3通を発刊している。(◎) イ 校内で実施する説明会は8月以降5回実施しているが、現1年生への調査(参加者は83%)で決め手になったのは12月、1月の説明会であることがわかった。(○)</p>
<p>4 体育科の充実に向けた一層の取組</p>	<p>(1) 成果、効果の検証とカリキュラム反映 ア 実態調査とカリキュラムの改善 (2) 地域連携と体育科の魅力の広報 ア 地域と連携したパフォーマンス課題への取り組みの発信 イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携強化と生徒のマネジメント力の向上</p>	<p>(1) ア 実態調査により、「つきたい力」が備わっているかを検証し、専門科目の指導内容と照合しカリキュラムをブラッシュアップする。 (2) ア 「スポーツ総合演習」での取り組みを地域に向けて発信し、パフォーマンス課題による課題解決力の獲得と地域への発信により達成感や自信を獲得できるようにする。 イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携などにより、生徒のマネジメント力と自己肯定感を高め、地域からの信頼を高める活動とする。</p>	<p>(1) ア 3年生専門科目での授業アンケート「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」とともに90%(H27:87.5%、90.0%) (2) ア 授業アンケート:「スポーツ総合演習3」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」80%以上 (H27:87.5%, 87.5%) イ 体育科3年生の自己診断:「学校生活の充実」90%以上 (H27:クラス別未集計)</p>	<p>(1) ア 担当教員の工夫により将来体育スポーツに関わるための講座の肯定感が極めて高かった。「スポーツ概論」の肯定感:興味関心98%、知識技能98%(◎) (2) ア イベント企画で地域対象企画はできなかったが、体育科1,2年生対象イベントをコンペ形式で企画、外部講師のジャッジで1グループが運営権を獲得、実施。「スポーツ総合演習」の肯定感:興味関心93%、知識理解95%(◎) イ 地域の総合型クラブと連携した教室をサッカーとテニスを実施できた。体育科3年生自己診断H28:90%(○) 地域の小学校を招き、本校の施設を活用し、「体力・運動能力テスト」を本校体育科教員の指導のもと実施した。将来的には生徒が主体となって実施したい。</p>